

授業概要

児童生徒の読書活動は、重要な文教政策課題の一つになっている。読書活動の意義や目的について考えながら、人格の形成に大きな影響を与える読書行為そのものを考え、味わうようにしたい。楽しむ読書や学ぶ読書、生き方に関わる読書を通して、発達段階に応じた読書活動を追究していく。

人間性を豊かにするために、読書の果たす役割は大きい。様々な読書体験の活動を行い、交流していく中で、豊かさを実感していくことが重要である。その営みを支える『読書』の魅力を追及し、自己の学びの成長に資するようにする。そのための読書活動の多様性に触れることを大切にする。

授業計画

第1回	読書活動の意義と目的
第2回	楽しむ読書の活動(1) 絵本に親しむ
第3回	楽しむ読書の活動(2) ファンタジー作品で広げる想像性
第4回	楽しむ読書の活動(3) 図鑑で知的好奇心を広げる
第5回	学ぶ読書の活動(1) ストーリーを考える
第6回	学ぶ読書の活動(2) 描写の効果をとらえる
第7回	学ぶ読書の活動(3) 論理的思考を巡らせて
第8回	生き方に関わる読書(1) 家族の問題を見つめて
第9回	生き方に関わる読書(2) 平和と人権の問題を受け止める
第10回	生き方に関わる読書(3) 命の尊さを求めて
第11回	同一作家を読む
第12回	一連の主張を読む
第13回	異質体験を試みて
第14回	読書体験の交流
第15回	読書感想文の指導と意義
第16回	レポート提出 まとめ

到達目標

様々な読書活動を自ら体験し、自己の読書生活をよりよくしていこうとする。

豊かな人間性に資する読書活動の可能性を追いかけ、読書の領域を拡大し、質を高める努力をすることの大切さを実感する。

履修上の注意

教員をめざす者として遅刻をしないようにする。自分なりの感じ方や見方を出し合いながら、様々な考えを幅広く受け止め、自分の感性をさらに豊かにしていく姿勢で臨むこと。

予習復習

授業で扱った読書作品に関連・発展する作品等、調べて次時につなげる取り組みを行う。それが復習となり、予習につながる。

評価方法

各回における授業中の話し合い活動への参加状況(30%) 授業中の振り返りおよび提出物(40%) 最終レポートの提出と内容(30%)

テキスト

必要に応じて資料を配付する。なお、テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。